

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103982		
法人名	医療法人 幸和会		
事業所名	グループホームこうほく		
所在地	岡山市北区津島東2-1-34 2F		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=3370103982-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=3370103982-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の皆様、共同生活住宅において、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように援助します。                  利用者の人としての尊厳を重視し、その人らしい生活が営めるように努めている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>岡山大学津島キャンパスの近くに位置し、1階がデイサービス、2階がグループホームとなっている。道路を挟んだ向かいには母体である医院があり、医師や看護師との連携も取りやすく、利用者の体調変化にも臨機応変な対応が可能である。今年度は「個人個人の尊厳を大切にす」という介護目標を掲げ、利用者への言葉かけや対応などについて意識した支援を行い、毎月の会議で振り返りを行っている。職員は長期勤務の方が多く、利用者や家族にとって安心感がある。管理者は現場と同じ目線に立ち、一緒に考えていく姿勢をもっており、職員同士が意見交換がしやすい関係ができている。また、日常の支援の中で同じ方向を目指し、お互いに声を掛け合い、助け合いながら動いている姿も随所で感じることができる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立場や経験に関わらず、事業所の理念を理解し、日々利用者に関わる際に意識して取り組んでいる。理念を基盤に個人個人に添ったケアプランを作成し、地域での生活が継続できるように努めている。	事業所独自の介護目標を作成し、より個々の尊厳に留意した支援を心掛けている。毎月の会議で振り返りを行い、気付いた点を話し合っている。その人らしい生活が送れるよう、生活歴や思いの把握に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の行事や清掃活動にも参加し、地域の方とのコミュニケーションを図る努力をしている。近隣の保育園児の訪問や、北公民館への秋祭り・駐屯地への祭り等の地域行事へ参加し、地域とのつながりを大切にしている。	地域のお祭りや公民館の文化祭など、地域行事に参加している。その時、知人に会うこともあり、懐かしい話に花がさくこともある。中学生の職場体験や保育園児の訪問など、子供との交流もある。	現在地に引っ越ししてきて2年目となり、新たな地域との関係作りが課題となっている。今までの経験を活かし、少しずつ交流の輪が広がる事に期待を寄せる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在取り組みは思うように行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから質問・意見・要望を受け、双方向的な会議となるように努力している。また、会議の内容にも工夫しているが、現在は家族の参加がほとんどない状況である。	2か月に1回、定期的で開催している。参加者は地域包括支援センター職員、中学校の先生が主であり、家族の参加が少ない。行事を一緒にしたり、日常生活をビデオにとり鑑賞したりと、事業所の様子を知ってもらうように心掛けている。	会議の土日開催や行政、地域住民への声かけ等により、参加者を増やし、多様な意見交換ができる場となることを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスを提供するにあたり、疑問などが生じた際、介護保険課の担当に助言・指導を頂きながらケアを実践している。	分からないことがあれば随時電話をし、その場で返答をもらっている。書類提出時には特に確認を行い、間違いのないようにしている。成年後見人制度を利用している方がおられ、必要な場合は手続きなども行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を定期的を実施し、職員の言動が身体拘束にあたらないかを常に意識しケアを行なっている。また、ケア会議においても振り返りを実施している。	利用者が落ち着いてストレスなく過ごすためにはどういふ声かけや支援がいいのか、ケア会議で具体的に話し合い、職員間で共有している。玄関は施錠していないため、センサーを設置し、出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を定期的を実施し、職員の言動が虐待にあたらないかを常に意識しケアを行なっている。また、ケア会議においても振り返りを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他の事業所との合同勉強会(全体ミーティング)で学ぶ機会がある。また、現在2名の利用者の方が成年後見制度を利用しており、実際に保佐人の方と話す機会もでき、制度について学ぶことができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書における些細な内容の変更に至るまで、時間をとり丁寧に説明を行い、同意を得ている。一方的な通達にならないよう、心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際には、随時要望を伺うようにしている。また、意見が言いやすいような雰囲気作りを心掛け、出された意見・要望・苦情は会議等で話し合い、早急な対応、解決に努めている。	面会時に要望や意向を聞き、対応できることはすぐに実践している。顔と顔を合わせて話をすることを大切にし、信頼関係を構築できるよう心掛けている。介護計画やアルバムを各居室に置き、家族が来た時に見ることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不満や苦情などの言い難い部分については、定期的・又は随時面接を行なっている。管理者では解決できないことについては、上司に報告・相談し、意見を反映させるようにしている。また、管理者や計画作成者側からも意識して声をかけている。	職員会議や申し送りなどで意見交換をするともに、職員の表情や様子を見ながら元気がない時には声をかける等している。毎朝、法人の朝礼に管理者かケアマネージャーが参加し、現場の意見を随時伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が密に連絡を取りつつ、職員が意欲を持って就労できるよう、定期的な面接を行ない、個々の能力などの把握に努めている。又、年2回のスキルチェックで自己覚知も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行なわれる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう計画を立てている。また、法人内の研修においても勤務調整を行い、研修の参加の機会を促している。今年度はリーダー研修への参加も実施できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と勉強会を開催したり、情報交換を行なう事で、サービスの質を向上させている。また、個々で自主的に研修や勉強会に参加し、そこでのネットワークづくりに取り組んでいる。(この度ではリーダー研修へ参加しつながりが持てた。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状態をしっかりと把握し、本人の思いや不安を受け止め、安心して生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、本人・ご家族よりしっかりと要望や情報を伺い、本人の立場に立ちながらケアに努め、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点においては、そのような対象者がいないが、今後、対象者が現れたら、可能な限り柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として共に過ごし、学び、支えあう関係作りを築けるように努力している。職員が利用者から労わってもらったり、励ましてもらう場面もある。また担当制を取り入れているので、職員も意識して担当とのつながりを深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、来訪時にはご本人とご家族が楽しい時間が過ごせるように心掛けている。また、誕生日会や他の行事への参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域役員をされていた方には、公民館へ行く事で、入居前の知人との交流が保てるようにしている。買い物へ行く事で、知人に声をかけられたりすることもある。	近隣に住んでいた方も多く、公民館や地域行事に出かけた時には知人と話をしている。自宅へ帰りたいたいという本人の希望を家族に相談したところ、自宅のカギを持ってきてくれ、職員が付き添い自宅に戻って少し過ごしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分、感情で日々時々変化する事もあるので、注意深く見守り、利用者同士の関係が円滑になるような働きかけを行なっている。中には関わりを好まない利用者もいる為、個々を尊重した関わりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、本人の面会に行ったりしている。ご家族からの相談については、いつでも受け入れができるような体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	日常の会話の中から本人の希望や思いをくみ取り、家族とも相談しながら実現に向けて取り組んでいる。「パンを買いに行きたい」等の生活の中で出来ることは職員同士で連携し、柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族に生活歴・入居前の暮らし方、その他些細な事まで把握できるように努めている。また、本人の語る生活歴等も把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の1日の生活リズム、心身状況を把握したうえで、できることに注目し生活を送れるように努めている。また、個人の状況については、職員間で確実な情報を流し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、職員全員でアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しはもとより、ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。	職員会議やケア会議にて職員の意見を聞き、3カ月毎に介護計画の見直し、モニタリングを行っている。介護計画は各居室に掲示し、利用者や家族がいつでも確認することができる。また、職員にとっても介護計画を確認し、意識するいい機会となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・入浴・排泄・身体的状況および、日々の暮らしの様子や、本人の言葉・エピソード等を記録している。これをもとに、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や、事前に把握できている受診など、ご家族と連携しながら勤務を調整し、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を契機に、地域包括支援センターから情報提供をもらっている。また訪問理美容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、主治医の希望を確認している。また、入居前に係っていた医療機関にも受診している。状況に応じて訪問診療や、他の医療機関を受診・往診を行っている。	月1回の訪問診療、週1回の訪問看護により健康管理を行っている。24時間365日、医師への連絡が可能であり、血圧の変化など気になることはすぐに報告し、指示をもらう体制ができている。眼科や皮膚科など他科受診は状況に応じて職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護ステーションの看護師と日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ない、医師との連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が定期的にお見舞いに行っている。又、医療機関・家族・主治医・職員で回復状況等の情報交換を行いながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合において説明を行い、且つ、随時意思確認をしながら、医師・職員が連携をとり、安心して納得した生活が送れるように取り組んでいる。	今のところ、看取り支援は行っていないため、入居時に説明をし、特養への申し込みを勧めている。口から食事が摂れなくなる、医療処置が長期間必要になる等の場合、医師を交えて家族と相談し、本人や家族が困ることのないように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、全ての職員が対応できるようにしている。緊急時の対応についてのマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日勤帯・夜間帯を想定した避難訓練を行なっている。また、水消火器や自動火災通報装置の使い方の訓練も行っている。	建物の1階にあるデイサービスと合同で年3回、避難訓練を実施している。消防署からは階段で降りるよりもテラスで待機するほうがよいと助言があったとのこと。災害対策についてまずは職員の周知徹底に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、声かけや訪室の際など一日の生活全体を通じ、利用者に誠意を持った対応が出来るよう心がけている。また職員間で確認意識づけたり、会議等の場で接遇に対する勉強もしている。また、その時々で疑問に思った言動についてはお互いに注意し合っている。	利用者が入所した後も変わらずに毛染めや化粧、カツラ、おしゃれなど継続できるよう支援している。普段から身だしなみを整え、本人の生活習慣やプライドを守ることができるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく職員側で決めた事を押し付ける事はせず複数の選択肢を提案して一人一人の利用者が自己決定できる場面を心がけている。また意思表示が困難な方には表情を読み取ったり等、自己決定の場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の体調等に合わせながら時間を調整している。例えば散歩や買物に出かけたり、余暇として裁縫や計算プリントなどを個々に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴を十分に把握し本人らしい髪型・化粧・服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで食事を作る際には、利用者の意見を取り入れ、調理の簡単な手伝い、音や匂い・味見等の五感を通じ、食事作りの参加を促している。また食事は職員と利用者が、テーブルを囲んで同じメニューをとり家庭的な雰囲気作りも大切にしている。	訪問した日は手作り昼食の日で職員が利用者一人一人に野菜を切る、皮をむく、盛り付ける等、役割をお願いし、にぎやかに調理を楽しんでいた。現在はほとんど厨房で調理をしているが、おやつや干し柿、お漬物など利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた食事量、バランス、飲水量の確認をして、記録に残している。摂取量が十分でない場合本人の好む食品や飲料水、食事のタイミングの工夫をしている。また、栄養面を考えた補助食品の提供や訪問看護にアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアを毎食後行なっている。また、個人に応じ、食前にも行なう方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方については個人の排尿間隔を把握しながら排泄援助を行っている。また、本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。排便についてマッサージやホットパックなど行い、できるだけ薬を使わずに排便できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、個人個人に合った便秘対策を行なっている。乳製品の飲用や食品に工夫をしたり、腹部マッサージ、適度な運動をとりいれている。状態に応じ緩下剤使用となる事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回、入浴日を決めているが、その日の体調・気分に応じて変更している。また、毎日入浴したい方は、体調を確認した上で極力入浴してもらい、拒否のある方には無理強いしない様にしている。足浴・手浴も実施している。	入浴時間を夕方にする事で、身体が温かいまま夕食を摂り、利用者が気持ちよく眠りにつけるよう配慮している。お湯の量や温度、時間などそれぞれ好みがあるので、気持ちよく入れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状態を観察し、眠たそうにしていれば、随時、臥床の時間を設けている。体調不良時には、安心して休息ができるように、臥床・見守りを行なっている。また、不眠だった朝などはゆっくりと起きてもらい状況に応じた対応を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書を閉じ、随時確認できるようにしている。また、主治医に相談しながら状態に応じて薬の減量や、変更にも努めている。また、内服しにくい方については、錠剤を粉砕にしたり、オリゴ糖を使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の家族からの情報をもとに、生活歴・趣味・特技などが生かせるように援助している。個人の役割として、洗濯干しをしたり、余暇時には、嗜好品を提供することで喜ばれている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望の訴えが出来ない方が多い為、こちらから、散歩・外気浴などができるように努めている。また、家族に協力してもらい、定期的に外出や外泊が行えるよう努めている。	テラスでの日向ぼっこや近隣への散歩、希望があればコンビニへ買い物など、利用者の思いに合わせて柔軟に対応している。職員同士が声をかけ合い、一人が散歩に出かけると他の職員がさりげなくカバーするなど、うまく連携が図れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を楽しむ事が出来る入居者については、小遣い帳をもってもらい、買い物をした後には、職員と共に小遣いの管理を行なっている。残額については、定期的にご家族に報告している。買い物時には、本人が支払いができるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と職員との連絡において、電話であれば、本人に代わり会話ができるようにしている。また、本人から家族に電話をしたいと希望があれば、随時対応している。クリスマスカードなどを送り、家族とのつながりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の空間に季節を感じ取れるようなディスプレイや、入居者が作成した壁画などを掲示している。アットホームな雰囲気を大切にしつつ、入居者が安心して過ごせるような環境の整備を行なっている。	フロアは空調管理に注意し、足元のヒーターなど個別で対応している。飾り物や壁画は担当職員を決め、作成し、季節を感じるができる。テラスは広く、ベンチや野菜や花を植えたプランターがあり、天気の良い日には日向ぼっこを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が食堂のみのため、食事・おやつの中には気の合ったもの同士が過ごせるように、席を考慮している。また、トラブルが起こらないような配慮もしている。二人掛けのソファに気の合った利用者同士、一人になりたい方が過ごせる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスは備え付けであるが、ピアノや椅子・机・絵画などなじみの物が持ち込めるようにし、安心して過ごせるようにしている。希望があればテレビを設置し、視聴を楽しんでもらっている。また居室で花の世話をしたり、家族の写真や自身が描いた絵画を飾っている方もいる。	ピアノや手芸、読書、日記、動物の写真など本人の好みの物を配置し、自宅と同じようにリラックスして過ごせるよう配慮している。季節の変わり目には担当職員が利用者と一緒に衣服の入れ替えや枚数の確認など行い、足りないものは家族にお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、ベットやタンスの配置を変え転倒防止に努めている。自力で歩かれる方については見守りや付き添いを行っている。同時に、歩行の妨げとならない様に環境整備にも努めている。		